

2022年7月31日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第65巻第16号(通算3298号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

かみさま ひととも
神様がすべての人と共におられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ 5:5)

せいれいこうりんせつ だい しゅうじつれいはい
聖霊降臨節 第9主日礼拝

れいはい
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そ う もくとう ちよさくけんしやうめつ
前 奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ
招きの詞 詩編 49編 2-5節

さんびか ばん せい かみ ちよさくけんしやうめつ
賛美歌 21-84番「聖なる神よ」(©著作権消滅)

せい し しょ ことば しやう せつ せつ しやう せつ
聖 書 コヘレトの言葉 1章 2節, 12-14節、2章 18-23節

いの ばん きゆうこん なか
お 祈り 賛美歌 21-575番「球根の中には」(©JASRAC)

メッセージ 「太陽と傲りの中で」 岡嶋 千宙 伝道師

さんびか ばん とら たみ
賛美歌 21-158番「囚われの民」(©JASRAC)

しゅ いの ばん てん わたし ちち きやうだんさんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

たんじやうしゃしゆくふくしき うしだ ただし ぼくし
誕生者祝福式 (*) 牛田 匡 牧師

ささげもの
献げ物 (**)

は けん ばん かみ めぐ う せつ
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゆくふく おかじま ちひろ でんどうし
祝 福 岡嶋 千宙 伝道師

こう そう ばん ちよさくけんしやうめつ
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほう こく ページ さんしやう
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* みんなで7月生まれの方(と今年度7月までにお生まれの方)を祝福いたします。ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

** 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 49 編 2-5 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

²すべての民よ、これを聞け。

世に住むすべての者よ、耳を傾けよ。

^{3a} 人の子は皆 (脚注 a: 直訳「人間の子も人の子も」)

豊かな者も、また貧しい者も共に。

⁴私の口は知恵を語り

私の心は英知を思う。

⁵私は格言に耳を傾け

こと かな
琴を奏でて、その謎を解き明かそう。

聖書 コヘレトの言葉 1 章 2、12-14 節、2 章 18-23 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

^{1:2} コヘレトは言う。

くう くう
空の空

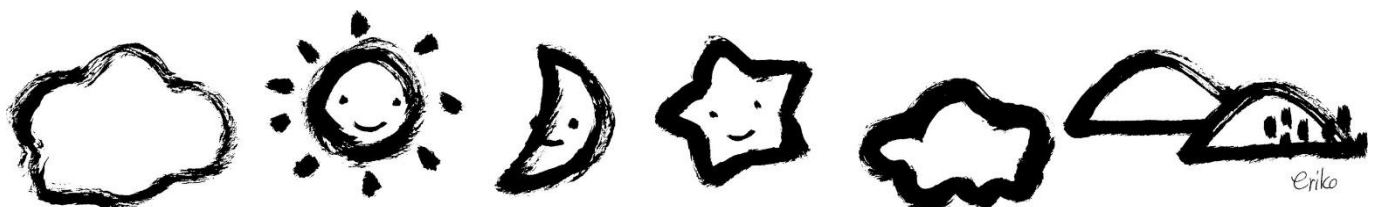
くう くう くう
空の空、一切は空である。

^{1:12} 私コヘレトは、エルサレムでイスラエルの王であった。¹³ 天の下で起こるあらゆることを、知恵によって探究しようと心を尽くした。これは神が、人の子らに与えて労苦させるつらい務めであった。¹⁴ 私は、太陽の下で行われるあらゆる業わざを見たが、やはり、すべては空くうであり、風を追うようなことであった。

^{2:18} 私は、太陽の下で なされるあらゆる労苦をいとう。それは私の後あとを継ぐ者に引き渡されるだけだ。¹⁹ その者が知恵ある者か愚かな者か、誰が知ろう。太陽のもと下で私が知恵を尽くして労したすべての労苦をその者が支配する。これもまた空である。²⁰ 私は顧み、太陽の下で なされたすべての労苦に、心は絶望した。²¹ 知恵と知識と才を尽くして労苦した人が、労苦しなかった人にその受ける分ぶんを譲らなければならない。これもまた空くうであり、大いにつらいことである。²² 太陽のもと下で なされるすべての労苦と心労が、その人にとって何になるというのか。²³ 彼の一生は痛み、その務めは悩みである。夜も心は休まることがない。これもまた空くうである。

(脚注 b: 直訳「私が労苦する」、c: 直訳「私が苦労した」、

d: 直訳「彼が苦労する」)



《先週のメッセージより》2022年7月24日 メッセージ

「放っておけない仲間」より

牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 8章 22-26節

今回のお話は、癒しの奇跡物語でした。人々が一人の目の見えない人を、イエス様たちの所に連れてきて、イエス様に「触れて頂きたい」と願ったそうです。「病人や障がい者は、宗教的に穢れているので関わってはいけない。関わると、自分も穢れてしまう。だから、そのような人たちを避けることが、正しいことだと考えられていた時代です。そのような社会常識に反して、イエス様は自分の所に来られた人たちを拒むことなく、自分の方からも触れました。そしてその人の目は見えるようになりました。実際にイエス様が触れることで、視力が回復したのか、それが歴史的事実であったかどうかは分かりません。ですが、大切なことは、イエス様の所に連れて来られた人を拒まず、自らが穢れることを顧みずに相手に触れ、いわばその穢れを共有した所に、神の力が働いたということ。言い換えれば、その相手の存在そのものを、ありのままで受け止め、つながった。そこに真の癒し、新しい命に目と心が開かれたということがあったのではないのでしょうか。

彼がそのようになれた背景には、イエス様との出会い、触れ合い以前に、まずは彼のことを「放っておけない仲間」として、親身になってイエス様の所まで連れてきてくれた人たちの存在がありました。彼の「穢れ」と呼ばれるものを共有したのは、イエス様だけではなく、彼を連れてきた仲間たちもまたそうでした。私たち自身の歩みを振り返ってみても、その時その時に多くの方々助けられ、支えられて来た、ということをおぼろげに思い出されるのではないかと思います。「放っておけない仲間」や「家族」として、大切にされた経験があるからこそ、一人一人の今があるのではないのでしょうか。

先日の安倍晋三元首相の襲撃事件も、大変な事件でしたが、近年いわゆる通り魔事件などが増えてきているように感じています。その背景には、何にも希望を見出せず、生きている意味も見出せず、家族も仕事も財産もなく、失うものが何もないから、怖いものが何もない。だから犯罪でも何でもできる「無敵の人」が増えているということがあるようです。誰も好んで「無敵の人」になりたい人はいないはずですが、奪われていい命、また奪わせてしまっていていい命は、存在しません。お互いに顔の見える関係、名前を呼び合い、知り合っている関係性、大切な友達、仲間、家族のような関係性が出来ていて初めて、私たちは自分の命も人の命も、安心して大事にできるのではないかと思います。私たちにできることはわずかですが、イエス様の言葉とふるまいに従って、「放っておけない仲間」の関係を、少しずつでも広げていきたいと願っています。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 7月24日

主日礼拝出席 大人 6名 子ども 2名 中継動画再生数 9回
 献金 大人 5,000円 子ども 400円 感謝

礼拝後に釜ヶ崎支援のために164個のおにぎりを作って、いこい食堂にお届けし、四角公園にて皆様にお配りすることができました。どうもありがとうございました。

◎次週 2022年8月7日(日) 平和聖日(聖霊降臨節第10主日) 礼拝

招きの詞 イザヤ書 55章 6, 12a節

聖書 コリントの信徒への手紙I 12章 14-26節

メッセージ「弱さを中心に生きる」牛田匡牧師

賛美歌 21-472番(©JASRAC)、21-371番(©教団)、こ改-34番(©塩田泉)

礼拝はインターネットで中継配信いたします。8月は礼拝後の「教会を考える会(役員会)」はございません。何かございましたら牧師か役員さんまでお伝えください。

◎お知らせ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染爆発「第7波」が到来し、再び感染者が急増し続けています。大阪府でも7月27日に再び「医療非常事態宣言」が出され、大阪モデル「非常事態」(赤信号)となり8月28日まで、感染防止対策(3密の回避、マスク着用、手洗い、こまめな換気等)の徹底や、不要不急の外出を控えることなどが要請されています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。

- ・8月6日(土)13時半~16時に、日本クリスチャンアカデミー・関西セミナーハウス主催の講演会「今なお差別される沖縄」が会場とリモート(ZOOM)の併用形式で開催されます。参加費は1,500円(学生は500円)です。申込期限は8月3日(水)です。会場へのアクセスや詳細は、関西セミナーハウス活動センターのウェブサイトをご参照ください。

<https://www.academy-kansai.org/index.php>

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
8/7	牛田牧師	平和聖日・ユウカリスト・(考える会なし)
8/14	水谷牧師	
8/21	岡嶋伝道師	
8/28	牛田牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援

日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター

2022年度 修学院フォーラム「社会」第3回

今なお差別される沖縄

会場と
リモート
(Zoom)

講師：金井 創 (日本キリスト教団佐敷教会牧師)

1945年、太平洋戦争末期の2月に近衛文麿が昭和天皇に終戦・降伏交渉を進めるべきと進言しましたが、天皇は「もう一度戦果をあげてからでなければ難しい」と退けました。その結果、東京大空襲や各都市への空襲があり、沖縄戦があり、広島・長崎への原爆投下がありました。戦後も1947年に天皇は布美・沖縄諸島を米国が長期にわたって占領継続することが両国にとって利益であると占領軍にメッセージを送っています。これによって日本が独立を回復した後も沖縄は20年間米国の占領下に置かれました。沖縄が「本土復帰」して50年たった現在でも在日米軍基地の70%が沖縄に集中していますし、さらに新しい基地建設まで進められています。沖縄はずっと差別されてきたのです。この「差別」の視点から日本と沖縄の関係を考えていきたいと思います。

日 時 2022年 8月 6日(土) 13:30 ~ 15:50 新型コロナウイルス感染の状況によって、変更する可能性があります。

参加方法 関西セミナーハウス来場(会場は申込先着10名まで)または、リモート参加

参加費 来場/リモート共通 1,500円 学生 500円 [リモートは振込で(振込先裏面)]

◎講師は、会場で講演し、話し合いに参加します。参加者は、次のいずれかの方法で参加できます。

[来場参加] 関西セミナーハウスの会場に集まり、大画面の映像とスピーカーを通して講演を聞き、話し合いに参加します。

[リモート参加] パソコンやスマートフォンなどを利用して、任意の場所からネットを通して参加することができます。申し込みの際にメールアドレスをお知らせください。メールアドレスにてZoomの招待状をお送りします。

金井 創 かない はじめ

1954年、北海道岩内町生まれ。
 1978年、早稲田大学政治経済学部卒業。
 1983年、東京神学大学大学院修士課程修了。
 1983~1996年、日本キリスト教団富士見町教会副牧師。
 1996~2006年、明治学院・学院牧師、明治学院教会牧師。
 2006年~現在 日本キリスト教団佐敷教会牧師。
 2010~2021年3月 沖縄キリスト教団関西修学院大学平和研究所コーディネーター。
 2007年~現在 辺野古新基地建設反対運動に参加
 (抗議船「不屈」、「木乃葉」船長)
 著書『生き方としてのキリスト教』(1999年 日本キリスト教団出版局)
 『沖縄・辺野古の抗議船「不屈」からの便り』(2019年 みなも書房)

要申込み 8月3日(水)までに Fax(原画)、電話、電子メール、WEBフォーム等でお申し込みください。